



トルコ・シリア大地震

災害医療チーム派遣

活発に救急・外科処置・訪問診療

NPO法人TMATは、2023年2月6日にトルコ南東部で発生した巨大地震により甚大な被害を受けた町、パーチェを中心に災害医療活動を行った。被災直後の翌7日からリレー形式で先遣隊、本隊の第1陣、第2陣を派遣し、合計23人が医療支援活動を行った。被害が大きかったパーチェ・リハビリ病院敷地内に建てられた仮設診療所テントを活動拠点に、現地の救急医療チームや地元医療機関と連携しながら561人を診療した。



トルコ・シリア大地震は2月6日午前4時頃(現地時間、以下同)に発生、TMATは翌7日に先遣隊の派遣を決定した。メンバーは坂元孝光・福岡徳洲会病院総合診療科部長、西村浩一・松原徳洲会病院(大阪府)看護主任、上田由美子・静岡徳洲会病院健康管理センター係長の3人。8日昼過ぎから現地調査活動などを行い、医療ニーズがあることや、WHO(世界保健機関)のEMTCC(緊急医療チーム調整本部)から被災地での医療活動の許可



右腕を切断した4歳女児は診療が終わり笑顔

が得られたことを受け、TMATは10日に医療支援チーム本隊の派遣を決めた。本隊は第1陣、その後、第2陣の合計20人が現地入りした。

UMKEと連携し 仮設診療所で診療

第1陣が現地に到着したのは12日昼過ぎ。機能不全に陥ったパーチェ・リハビリ病院敷地内の仮設診療所テントで診療を本格的に開始すると、2人だけで24時間診療していたトルコ国立医療レスキューチーム(UMKE)の医師が「昼夜問わず200人を超える患者さ

さんの対応をしている」と説明。TMAT隊員に謝意を示すとともに喜びをあらわにした。TMATは3つの診療テントのうち、2つの診療テントに分かれ救急と創傷治療など外科処置を担当。当初はUMKEスタッフが一緒に活動していたが、次第に信頼関係が醸成、2つとも任せられるようになった。

訪問診療も積極的に行なった。めまいや発熱があるものの、自力歩行ができない患者さんからの依頼を受け、急遽、町田崇・福岡病院救急科医師と上國料一康・東大阪徳洲会病院看護副主任が自宅を訪問。その場では処置が難しいと判断し、診療テントに搬送した。テント内でエコー検査や心電図測定などを実施した後、救急車で遠方

「訪問時に病院での受診を勧めましたが、拒否されたため、いったん私たちの診療テントに搬送しました。検査の結果、やはり入院が妥当だったため、ご家族に説明し、患者さん本人も納得されたので病院に救急

搬送しました」と町田医師。家族からは「日本から来て、さらに自宅まで足を運んでいただき、本当に感謝しています。今後困っている方のために、ご助力をお願いします」と期待を寄せられた。

ご挨拶

WHOのEMT認証 取得に向け全力投球

NPO法人 TMAT理事長
ふくしま やすよし
福島 安義

2022年は、モルドバ共和国でのウクライナ避難民に対する支援のためのクラウドファンディングに、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございました。これまでモルドバで活動している2つのNGO(非政府組織)の協力を得て、支援活動を継続してまいりましたが、このたび、TMAT事務局員を派遣して現地の状況を調査し、協力関係にあるNGOと協議を行いました。協議では、戦争が長引き、ダムが決壊などにより、モルドバへのウクライナ避難民は増加しており、支援の継続が必要とのことでした。こうした状況に鑑みTMATは今後、支援継続について検討していく考えです。

また、23年2月6日に発生したトルコ・シリア大地震に対しては、いち早く現地に入り、約3週間、トルコ南東部で災害医療活動を実施しました。この時の様子は、「ガイアの夜明け」というテレビ番組で全国放送されました。その後、WHO(世界保健機関)主催のトルコ・シリア大地震に関するワークショップにも医師2人を派遣、参加しました。

NGOなどが海外で災害時の医療活動を行うにあたっては、今後、WHOのEMT(緊急医療チーム)認証が必要となっていることから、現在、TMATは、その取得を目指しております。今後もTMATの活動にご協力を賜りたく、心からお願い申し上げます。

TMATによるトルコ・シリア大地震支援活動の動き		
2月6日(日本時間)	10:00過ぎ	トルコ南部でマグニチュード7.8の地震発生
	14:00頃	TMAT事務局が情報収集開始
	19:00過ぎ	1回目の地震と近い地域でマグニチュード7.5の地震発生。TMAT 緊急対策本部設置。
2月7日(日本時間)	8:00	現地ニーズ調査のため先遣隊3人(医師・看護師・事務職員)の派遣を決定
	22:50	羽田空港発の飛行機でイスタンブールへ出発
2月8日(以下、現地時間)	9:00	イスタンブールに到着し、現地の協力者とミーティング後、アダナへ出発
	14:00頃	アダナに到着。空港内に設置されているWHO(世界保健機関)のEMTCC(緊急医療チーム調整本部)カウンターに医療チームとして登録。「TEAM10」を割り当てられる
	17:00頃	アダナのEMTCC事務所までEMTCC 現地責任者と打ち合わせ
2月9日	11:00	ハタイ(震源地南側)の調査を開始
	14:00頃	ハタイの別の地域を再調査
	19:00頃	オスマニエで避難所を管理している責任者と面談
	21:00頃	アダナのEMTCC事務所を訪問し、調査状況を説明
2月10日	12:30頃	オスマニエ危機管理会議にて TMAT のオスマニエの避難所での医療活動の許可が出る
	13:00頃	マサルパークにあるテント・避難所を調査
	14:00頃	医療チーム本隊第1陣の派遣が決定
2月11日	12:00頃	オスマニエ活動拠点のカウンターパートとなる医師と電話ミーティング
	14:00頃	アダナのEMTCC事務所を訪問
	16:50頃	医療チーム第1陣(6人)が羽田空港から出発
	18:00頃	EMTCCに参加しているJDR(日本政府派遣のJapan Disaster Relief)医療チームのメンバーと面談
2月12日	9:00頃	先遣隊がオスマニエの活動サイトに到着。現地協力者や地元医師と今後の運営について協議
	16:00頃	第1陣6人と通訳4人がオスマニエの活動サイトに到着
	18:30頃	EMTCCリーダー会議にオンライン出席(医師2人)
2月13日	3:30頃	第1陣2班(4人)が成田空港から出発
	8:30頃	EMTCCに報告する診療報告MDS(Minimum Data Set)の運用が開始。患者登録を行う
	10:30頃	パーチェの仮設診療所に到着。同地をTMATの活動サイトとする。UMKEの医師2人とともに診療を開始。20人の患者を診療
	23:30頃	第1陣2班4人がアダナに到着。先遣隊、第1陣と合流
2月14日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。21人を診療
	11:00頃	先遣隊3人がスルダラ地域を視察
	23:00頃	帰国のため先遣隊がアダナ・ジャキルバシャ空港へ出発
2月15日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。41人を診療
	19:30頃(日本時間)	先遣隊が羽田空港に帰国
2月16日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。59人を診療
	午前中	オスマニエ対策本部を訪問(鈴木センター長、浅野・看護主任)
	16:30頃	日本の医療チーム(NPO 法人)の先遣隊2人がパーチェの活動サイトを来訪。情報交換を行う
	17:00頃	医療チーム本隊第2陣9人の派遣が決定
2月17日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。44人を診療
	午前中	オスマニエ県立病院を視察(鈴木センター長、久保山看護師)
2月18日	3:30頃	第2陣9人が成田空港へ出発
	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。67人を診療
	11:00頃	ガジアンテップにあるJDR 医療チームの活動サイトを視察(鈴木センター長、合田医長)
	21:20頃	第2陣メンバーがアダナに到着
2月19日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。40人を診療(UMKEがパーチェの活動サイトで活動を終了)
2月20日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。54人を診療
	10:00頃	第1陣メンバー7人がスルダラ、イスララヒエを視察
	10:30頃	オスマニエ保健省、オスマニエ災害対策本部を訪問(鈴木センター長、當麻部長、阪本事務局員)
	11:30頃	第1陣メンバー7人、UMKE 設立メンバーと交流
	20:00頃	ハタイ県を震源とするマグニチュード6.4と5.8の地震が発生。メンバー全員無事
	23:00頃	帰国のため第1陣メンバーがアダナ・ジャキルバシャ空港へ出発
2月21日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。30人を診療
2月22日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。51人を診療
	午後	活動サイトの診療所テントを撤収。パーチェ・リハビリ病院の診療室1室に活動拠点を移動
	20:00頃(日本時間)	第1陣メンバーが羽田空港に帰国
2月23日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。21人を診療
2月24日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。49人を診療
	午前	近隣の避難所テントで健康相談と血圧測定を実施
	午後	第2陣メンバー4人がスルダラを視察
2月25日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。21人を診療
	午後	第2陣メンバー5人がスルダラを視察
	17:30頃	野口・事務局員がアダナに到着
2月26日	9:00~17:00	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。30人を診療
	10:00頃	近隣の避難所テントで健康相談と血圧測定を実施
2月27日	午前	パーチェの活動サイトで診療活動を継続。12人を診療
	9:30頃	パーチェ・リハビリ病院院長とマネージャーへ活動終了に関する挨拶ならびに活動報告、レポート提出(當麻部長、野口・事務局員)
	13:00頃	活動サイト撤収準備開始。TMAT に対応した患者すべてのカルテと紹介状を病院担当者へ引き継ぐ
	14:30頃	オスマニエ保健省を訪問。責任者に活動終了の報告とレポート提出(當麻部長、野口・事務局員)
	17:00頃	アダナにあるEMTCC事務所を訪問。Exit Report と、TMATの活動報告レポートを提出(當麻部長、野口・事務局員)
2月28日	9:00頃	在トルコ日本国大使館訪問のため野口・事務局員が首都アンカラに向けてアダナ・ジャキルバシャ空港へ出発
	13:00頃	帰国のため第2陣メンバーがアダナ・ジャキルバシャ空港へ出発

(2面に続く)



訪問診療の依頼があった患者さんを診療テントに搬送

さんにも対応。地震で右腕を切断、左腕にも大きなけがを負った4歳女児は、ガーゼを交換するために訪れるものの、テントの中に入るのを拒み、大声で泣きじゃくることがあった。連日対応した坂口結斗・中部徳洲会病院(沖縄県)薬剤部副主任は「消毒の痛みにも耐える彼女の姿を見ると、地震の悲惨さを思い知ります。それでも拘縮していた左手の指が動くようになり、少しほっとしました」と胸の内を吐露した。

WHOとトルコ保健省から招待

トルコ政府が感謝状贈呈

各国医療チームと支援内容議論

TMATはトルコ・シリア大地震での医療支援活動に対して、トルコ政府から感謝状を贈呈された。2023年6月15日から2日間、トルコ国内で同災害に関する振り返りの会議(欧州WHOとトルコ保健省主催)が開かれ、TMATから坂元孝光・福岡徳洲会病院総合診療科部長と合田祥悟・札幌東徳洲会病院救急集中治療センター医長が出席。会期中に贈呈式が行われ、代表で坂元部長が感謝状を受け取った。TMATは2月7日~2月27日にトルコで医療支援活動を展開し561人を診療。坂元部長は先遣隊、合田医長は本隊第1陣メンバーとして現地に赴いた。合田医長は「活動の励みになります。身が引き締まる思いです」と吐露。EMT(緊急医療チーム)認証の団体が数多く参加するなか、まだ認証過程にあるTMATが同会議に招待されたことに触れ、「これまでの活動がWHOに認められている表れだと思います。EMT認証を目指す気持ちが一層強くなりました」と決意を新たにしました。会議はAfter Action Review (AAR) Workshopと呼ばれるもので、現地で支援した各国の医療チームの活動内容やモデルケースとなる取り組みなどを共有。活動中に明らかになった課題に関してグループワークも行い、団体間の関係を築く良い機会にもなった。



感謝状の盾を受け取る坂元部長。他の団体も感謝状を受領

ウクライナ難民支援 生活物資や医薬品提供



支援物資を持参して避難施設を訪問(2023年7月の再訪時)

今後も長期的な支援を検討

「2023年7月時点で、約11万人のウクライナ難民の方々、依然として隣国のモルドバ共和国で避難生活を送っています。一定の支援体制は整いつつありますが、避難民は減少しておらず、むしろ戦争の終息が見えないなかで、状況はさらに悪化するおそれがあり、多くの方々が不安を抱えています」。同月3～6日にかけてモルドバを訪問したTMATの野口幸洋・事務局員(一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)は厳しい表情で話す。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まった22年2月から1年半が経過した。TMATは同年4月以降、モルドバ日本文化文明協会とNational Congress of Ukrainians of Moldova (NCUM) という2つのNGO(非政府組織)と連携し、支援活動を展開。クラウドファンディングで支援金を募り、モルドバで避難生活を送るウクライナ難民に生活物資や衣服、食料品、電化製品、玩具や教育関連品などを提供し、ウクライナ国内の病院には医薬品を届けるなど支援を行ってきた(『TMATニュースダイジェスト』14号で既報)。

野口・事務局員は現状把握や避難施設への物資支援のため、今回、モルドバを再訪。両NGOからは支援活動に対する謝意が伝えられたほか、TMATからもこれまでの連携に対し感謝状を贈呈した。

現地では避難施設の統廃合(小規模避難施設の閉鎖と集約化)が進み、8月からは避難民の公的な登録制度が始まるなど、ウクライナ難民を取り巻く状況が変化していることなどもわかった。

7月までの支援活動により、クラウドファンディングで募った支援金(約1,400万円)は底をつく。「避難生活は、さらに長期化する見通しです。これまでと同規模の支援は難しいですが、継続的な支援を検討していきます」(野口・事務局員)。



地震後、息苦しさを訴え診療 TENT を訪れた女性

診療 TENT での対応は22日終了。その後、TMATは一部機能が復旧したバーチエリハビリ病院1階の一角にある診療室に活動拠点を移した。UMKE 撤収後、同院スタッフが本格的に診療に参加できるようになるまでの間、一時的にTMATも内科・外科問わず診療

23日以降は引き続き外科領域を中心に対応したが、時間の経過とともに、外科を必要とする患者さんが減少。その一方で、呼吸器疾患や発熱など内科的疾患のほうが増え、同院や地域の医療機関で対応が可能になるなど、医療機能が復旧し始めたことから、現地での活動を27日に終了することを決定。27日午前中にバーチエリハビリ病院院長らに活動報告の挨拶をするともに、来院している患者さんにもTMATの



ひと足早く撤収するUMKEの医師らとフラッグを交換

23日以降は引き続き外科領域を中心に対応したが、時間の経過とともに、外科を必要とする患者さんが減少。その一方で、呼吸器疾患や発熱など内科的疾患のほうが増え、同院や地域の医療機関で対応が可能になるなど、医療機能が復旧し始めたことから、現地での活動を27日に終了することを決定。27日午前中にバーチエリハビリ病院院長らに活動報告の挨拶をするとともに、来院している患者さんにもTMATの

その後、當麻俊彦・八尾徳洲会総合病院(大阪府)整形外科部長と野口幸洋・事務局員(一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)はEMTCC事務局やオスマニ工保健省へ活動終了の報告と挨拶を行った。

3月1日には野口・事務局員が在トルコ日本国大使館を訪問し、鈴木量博・駐トルコ

(1面から続く)
またある日、「胃瘻を造設している寝たきりの人がいるので、病院に入院させたい」と避難民から相談が寄せられ、バーチエリハビリ病院の院長に状況を説明し、調整する場面も見られた。こうした訪問診療について佐藤哲也・湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県)看護師長は「地震で車が壊れ、遠方の病院に行けない方もいます。訪問する意味は十分にありま

す」と強調する。診療 TENT での対応は22日終了。その後、TMATは一部機能が復旧したバーチエリハビリ病院1階の一角にある診療室に活動拠点を移した。UMKE 撤収後、同院スタッフが本格的に診療に参加できるようになるまでの間、一時的にTMATも内科・外科問わず診療

23日以降は引き続き外科領域を中心に対応したが、時間の経過とともに、外科を必要とする患者さんが減少。その一方で、呼吸器疾患や発熱など内科的疾患のほうが増え、同院や地域の医療機関で対応が可能になるなど、医療機能が復旧し始めたことから、現地での活動を27日に終了することを決定。27日午前中にバーチエリハビリ病院院長らに活動報告の挨拶をするとともに、来院している患者さんにもTMATの

その後、當麻俊彦・八尾徳洲会総合病院(大阪府)整形外科部長と野口幸洋・事務局員(一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)はEMTCC事務局やオスマニ工保健省へ活動終了の報告と挨拶を行った。



鈴木大使に活動報告書を手渡す野口・事務局員(右)

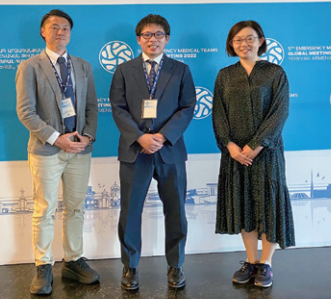
TMAT派遣メンバー

先発対	坂元孝光・福岡徳洲会病院総合診療科部長(院長)	福原俊彦・八尾徳洲会総合病院(大阪府)整形外科部長(院長)
	西村浩一・松原徳洲会病院(大阪府)看護主任	伊藤田ゆな・湘南藤沢病院看護師
	上田由美子・静岡徳洲会病院健康センター係長	田中裕一・徳洲会病院救急科看護師
第1陣	鈴木裕之・福岡徳洲会病院救急センターセンター長(院長)	伊藤田ゆな・湘南藤沢病院看護師
	合田祥悟・札幌徳洲会病院救急集中治療センター医師	土山優子・八尾病院看護部主任
	佐藤哲也・湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県)看護部長	池江まさ・福岡病院看護師
	村上芳樹・宇治徳洲会病院(京都府)看護部長	上藤裕一・東大徳洲会病院看護部主任
	久保山貴史・福岡病院看護師	藤原裕・武蔵野徳洲会病院(東京都)副院長
第2陣	野野原子・四街道徳洲会病院(千葉県)看護主任	堀川拓也・四街道徳洲会病院薬剤師
	田村宇野郎・湘南鎌倉総合病院(神奈川県)外科部長	坂本志帆 TMAT事務局
	津野真子・成田徳洲会病院(千葉県)看護主任	(一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)
	坂口結斗・中部徳洲会病院(沖縄県)薬部課主任	野口幸洋 TMAT事務局
	西沢光明・札幌東徳洲会病院国際医療支援室係長	(一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)

TMATの派遣実績

年	月	災害	国内	海外
1995年	1月	阪神・淡路大震災	○	
1995年	9月	サハリン大地震		○
1999年	9月	9.21台湾大地震		○
2004年	10月	新潟中越地震	○	
2004年	12月	インドネシア・スマトラ沖地震(その他4カ国)		○
2005年	2月	福岡西方沖地震	○	
2005年	2月	パキスタン北部地震		○
2006年	2月	フィリピン・レイテ島地滑り災害		○
2006年	2月	インドネシア・ジャワ島中部地震		○
2007年	2月	能登半島沖地震	○	
2007年	2月	新潟中越沖地震	○	
2008年	2月	ミャンマー・サイクロン災害		○
2008年	2月	中国・四川省大地震	○	
2008年	2月	岩手宮城内陸地震	○	
2008年	2月	岩手北部地震	○	
2010年	2月	ハイチ大地震		○
2010年	2月	チリ地震		○
2010年	3月	中国・青海省地震		○
2010年	10月	電気雷雨災害	○	
2011年	3月	東日本大震災	○	
2011年	10月	トルコ東部地震		○
2013年	11月	フィリピン台風災害		○
2015年	4月	ネパール大地震		○
2015年	9月	関東豪雨災害(常総市)	○	
2016年	4月	熊本地震	○	
2016年	10月	ハイチハリケーン災害		○
2018年	7月	西日本豪雨災害	○	
2018年	9月	北海道胆振東部地震	○	
2018年	10月	インドネシア スラウェシ地震		○
2018年	11月	ロヒンギャ難民支援		○
2019年	8月	九州北部大雨	○	
2019年	9月	台風15号(千葉県)	○	
2019年	10月	台風19号(長野県・宮城県・他2件)	○	
2020年	7月	九州南部豪雨(熊本県)	○	
2022年	5月	ウクライナ難民支援(モルドバ)		○
2023年	2月	トルコ・シリア大地震		○

共和国日本国特命全権大使と面会。鈴木大使は「これだけ早くに被災地に入って医療活動をしていただけたことにとて感謝しています」と感謝の言葉を呈した。その後、野口・事務局員が帰国し、活動終了。今回の活動の様子はテレビ放送されるなど、高い関心が寄せられた。



アルメニアでのグローバルミーティングに参加した(左から)野口課長、合田医師、石田係長

EMTはWHO(世界保健機関)のEMT(緊急医療チーム)認証プロセスに入っている。同認証はWHOが国際的な災害医療支援活動を行うチームを統括し、質を担保するために設けた制度。同プロセスの一環として、TMATは2022年10月5日から3日間、アルメニア共和国で開催されたEMTグローバルミーティングに参加した。

EMT認証が設けられた背景には、10年のハイチ地震の際、多くの国の医療支援チームが被災地に入り活動を行ったものの、統制が取れないばかりか、非人道的な支援を行ったチームもあったことなどがある。そこでWHOはチームの統制を図り、質を担保することを目的に、新たに医療支援チームの認証制度を構築した。EMTはチームの機能に応じ3タイプのカテゴリがある。その機能とは「Type 1 Mobileが移動型診療(診療数50人/日)」、「Type 1 Fixedが固定型診療(診療数100人/日)」、「Type 2が外来・手術・簡易入院」、「Type 3が外来・手術・入院。現在、世界では計37チームが認証を受けており、TMATを含む約100チームが認証を受ける

EMT認証が設けられた背景には、10年のハイチ地震の際、多くの国の医療支援チームが被災地に入り活動を行ったものの、統制が取れないばかりか、非人道的な支援を行ったチームもあったことなどがある。そこでWHOはチームの統制を図り、質を担保することを目的に、新たに医療支援チームの認証制度を構築した。EMTはチームの機能に

EMTグローバルミーティングは、WHOが中心となって開催する災害医療のあり方をテーマにした国際会議。すでに

アルメニアの会場には、約10カ国から700人以上が参加。TMATからは、札幌東徳洲会病院の合田祥悟・救急集中治療センター医師、湘南鎌倉総合病院(神奈川県)の石田亜紗子・人材開発室係長、一般社団法人徳洲会の野口幸洋・医療安全・質管理部課長が、現地入りした。

同会議では初日、地域ごとの連携強化を目的に、各地域に分かれディスカッションを実施。TMATは西太平洋地域に区

EMT認証が設けられた背景には、10年のハイチ地震の際、多くの国の医療支援チームが被災地に入り活動を行ったものの、統制が取れないばかりか、非人道的な支援を行ったチームもあったことなどがある。そこでWHOはチームの統制を図り、質を担保することを目的に、新たに医療支援チームの認証制度を構築した。EMTはチームの機能に

EMTグローバルミーティングは、WHOが中心となって開催する災害医療のあり方をテーマにした国際会議。すでに

アルメニアの会場には、約10カ国から700人以上が参加。TMATからは、札幌東徳洲会病院の合田祥悟・救急集中治療センター医師、湘南鎌倉総合病院(神奈川県)の石田亜紗子・人材開発室係長、一般社団法人徳洲会の野口幸洋・医療安全・質管理部課長が、現地入りした。

同会議を終え野口課長は「EMT認証はグローバルスタンダードとして、チームの質を担保するために必要です。準備の過程でチームの士気も高まっていると感じます」と語気を強める。合田医師は「3日間のグローバルミーティングで世界の最新情報に触れ、刺激を受けました」と満足した様子だった。

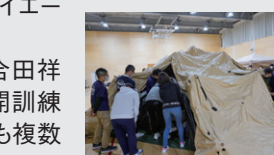
EMT認証取得へ WHOミーティングに参加

TMATはWHO(世界保健機関)のEMT(緊急医療チーム)認証プロセスに入っている。同認証はWHOが国際的な災害医療支援活動を行うチームを統括し、質を担保するために設けた制度。同プロセスの一環として、TMATは2022年10月5日から3日間、アルメニア共和国で開催されたEMTグローバルミーティングに参加した。

EMT認証取得へ準備加速 初の展開訓練を実施

TMATは2022年10月22日、湘南鎌倉医療大学(神奈川県)の体育館で、所有している資機材を用い展開訓練を初めて実施した。自己完結型の診療所設営の展開、資機材の運用方法の確認、課題の洗い出しなどが目的。同訓練はWHO(世界保健機関)のEMT(緊急医療チーム)認証取得に向けた準備の一環だ。

訓練では、実際に大型の TENT を建て、湘南鎌倉医療大学の学生が模擬患者となり、TENT 内で診察を行ううえでの物品の配置や人の流れなどを確認。福島安義TMAT理事長も会場に駆け付け、訓練の様子を見守った。TMATの野口幸洋・事務局員(一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)は「TMATは民間団体であるため軍用機での資機材の移送はできず、民間機に積載できる資機材に限られます。展開訓練で使用した資機材はハイエース(バン)1台に収まります」と説明。TMAT隊員で札幌東徳洲会病院の合田祥悟・救急集中治療センター医師は「展開訓練は改善の余地がまだありますので、今後も複数回の訓練をとおし、隊員への共有やブラッシュアップを図っていきます」と意欲的だ。



診察の拠点となる大型 TENT を設置する訓練



学生が模擬患者となりTENT 内での診察の流れを確認

TMATが3演題発表

EMT認証取得を目指す

第28回日本災害医学会総会・学術集会が2023年3月9日から3日間、岩手県で開催された。テーマは「災害保健医療の過去・現在、そして未来、人材育成」東日本大震災被災地からの発信」。TMATは、パネルディスカッションと一般演題で3演題を発表した。



野口 幸洋
TMAT事務局長
一般社団法人徳洲会(社徳)
医療安全・質管理部課長

TMATの特徴を紹介

組

「民間医療グループが取り組む災害医療支援体制」NPO法人TMATの事例」と題し発表。TMATが徳洲会と連携して迅速に活動できる体制や、国内の災害を想定した研修などの人材育成活動、他団体と連携した訓練などを紹介。被災地では避難所に常駐して活動する点や、医療支援だけでなく福祉活動などへの支援も行う点も強調した。

また、WHO(世界保健機関)が認証するEMT(緊急医療チーム)を目指していることに触れ、資器材の整備や展開訓練を実施している取り組みを報告。「トルコ・シリア大地震でも活動しました。こうした経験をもとに、さらなるブラッシュアップに励んでいきます」とまとめた。

感染対策を徹底

一般演題(口演)で「コロナ禍での研修会についての報告」をテーマに発表。TMAT隊員として活動するために受講が必要な国内災害医療支援コースの開催を、コロナ禍で見合わせる動きもあつたが、感染管理認定看護師の指導の下、適切な感染対策を講じて従来どおり対面で開催できたことを報告した。

ただし、感染対策を施しても対面での参加は難しいという声もあつたことから、オンライン研修システムも導入。コロナ前の3年間とコロナ禍の3年間で研修回数は変わらなかったが、受講者数が増加したことを強調した。「適切な感染対策を講じた対面研修とオンラインで研修のどちらも実施し、不安なく参加できたことが参加者増につながったと思います」と締めくくった。



阪木 志帆
TMAT事務局長
社徳医療安全・質管理部副主任

第28回 日本災害医学会 総会・学術集会
The 28th Annual Meeting of Japanese Association for Disaster Medicine
災害保健医療の過去・現在、そして未来
~東日本大震災被災地からの発信~
2023 3/9(Thu) - 11(Sat)
会場: マリオス アイーナいわて県民情報交流センター
会長: 眞瀬 智彦
副会長: 石井 正, 島田 二郎

大規模資材輸送が課題



合田 祥悟
TMAT医師
札幌東徳洲会病院
救急集中治療センター医長

一般演題(口演)で「NPO法人TMATによるWHO国際医療緊急チーム(EMT)取得に向けた取り組み」をテーマに発表。EMTのなかでもType 1 (mobile) という外来機能中心に活動するチームを

目指しているが、想定以上に大規模な資材の輸送を求められるなど、課題がある点を指摘。2023年2月に発生したトルコ・シリア大地震でTMATが支援活動を行った際、民間機で移動したため資材の輸送に限度があつたことに触れ、課題解決に取り組む意向を示唆した。合田医長は「トルコ支援時では、WHOが求めるMDS(診療報告)を、EMT認証チームよりも早くTMATから提出できた点は良かったです」と強調、「今後認証の弾みになります」と期待していた。

総合的な災害対策力向上へ 新たに国際(海外)コース

TMATは国際(海外)災害医療支援トレーニングコースを新設した。これで国内災害医療支援トレーニングコース、病院防災コースと合わせ3コースを運営、院内外での総合的な災害対策力向上を図っている。

国内・病院防災含め全3コースに

TMATは2023年6月18日、一般社団法人徳洲会(社徳)東京本部で、第1回国際(海外)災害医療支援トレーニングコースを開催した。これは、国内災害医療支援トレーニングコースをベースにした海外支援特化型の一泊研修コースで、同コースを修了することにより、TMAT隊員として海外被災地への派遣資格を得ることができる。TMATは国際的な災害支援を取り巻く環境の変化と、WHO(世界保健機関)によるEMT(緊急医療チーム)認証制度開始に対応するため、新たに同コースを創設した。当日は全国の徳洲会病院から24人の多職種が参加し研鑽を積んだ。



第1回国際(海外)災害医療支援トレーニングコースの講義の様子



第1回国際(海外)災害医療支援トレーニングコース修了後に記念撮影

国内災害医療支援トレーニングコースも継続して開催。同コースはTMAT隊員として国内で災害医療支援を行ううえで必要な知識を身に付けるプログラムで、グループワークを中心に災害時の対応やTMATの活動について学ぶ。

22年9月18日に榛原総合病院(静岡県)、11月13日に湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県)、12月17日に吹田徳洲会病院(大阪府)、23年1月22日に岸和田徳洲会病院(同)、6月17日に社徳東京本部を会場に開催した。

大規模な災害訓練

関係機関との連携確認

湘

南藤沢徳洲会病院(神奈川県)と四街道徳洲会病院(千葉県)

ち上げ、傷病者(役)のトリアージ(重症度・緊急度選別)と処置ドクターへリによる傷病者搬送などをトレーニングした。

10月16日、湘南鎌倉総合病院(神奈川県)で行われた「令和4年度ビッグレスキューかながわ」に参加した。大規模地震発生時の初動対応のうち、医療救護活動や救出救助を主体とする実働訓練で、12年度から神奈川県が県内の市町と連携し開催。22年度は葉山町との合同実施となり、同年7月に県の災害拠点病院に指定された湘南鎌倉病院が訓練会場のひとつとなった。

当日は、TMATに加え、湘南鎌倉病院のスタッフやDMA T(国の災害医療チーム)隊員、県内の保健所、消防、統括DMATら関係機関が参加。それぞれ連携し、災害対策本部の立ちあがりかえした。

訓練終了後は参加者が一堂に会し反省会を実施。転院調整の進め方や申し送りのツールなど情報共有、連携の方法に課題を指摘する声が多くあつた。夜間の発生を想定した訓練の実施など、今後の訓練に対する提案も見られた。TMATも出席し、DMATとの連携について言及した。

訓練終了後は参加者が一堂に会し反省会を実施。転院調整の進め方や申し送りのツールなど情報共有、連携の方法に課題を指摘する声が多くあつた。夜間の発生を想定した訓練の実施など、今後の訓練に対する提案も見られた。TMATも出席し、DMATとの連携について言及した。

ホームページが充実

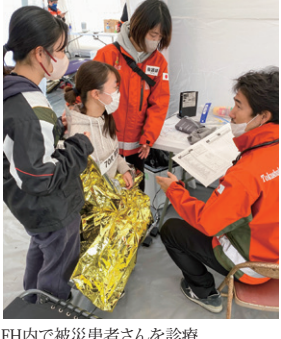
TMATはホームページを通じて積極的に情報発信に努めている。「NEWS・お知らせ」のコーナーでは、豊富な写真とともに国内外での活動の様相を紹介。福島安義TMAT理事長の挨拶やTMATの理念、活動分野、定款など基本情報に加え、TMATが主催するトレーニングコースの告知なども行っている。

2006年6月に発行したTMATニュースダイジェストについては、第1号からすべてのバックナンバーをPDFで公開。さらに、TMATへの入会案内、募金方法、研修会のプログラムの紹介など盛りだくさんのコンテンツだ。タイムリーな活動情報を得られるFacebookへのリンクもある。



多機関連携訓練に参加 南海トラフ地震を想定

TMATは南海トラフ巨大地震の発生を想定した多機関連携災害時医療救助訓練に参加した。



FH内で被災患者さんを診療

巨大地震発生後、大津波が発生し東海地方から九州地方まで太平洋側の広範囲にわたる地域で甚大な被害を想定、大規模災害時に救命救急活動に携わる各種団体が連携し被災患者さんの捜索、救護、搬送まで一連の流れを訓練。課題の洗い出しなどを行い、発災時に即時対応できる体制づくりにつなげるのが同訓練の狙いだ。

高知県安芸郡田野町にある二十土公園を会場に、大学や消防、企業、NGO(非政府組織)など24団体・約150人が参加。特定非営利活動法人ピーズウィンズ・ジャパン(PWJ)が主催し、2022年12月10日から2日間実施した。TMATからは6人が参加し、3人が見学者として立ち会った。HumA(災害人道医療支援会)なども参加した。

訓練でTMATは、PWJからの協力要請を受けて、発災後にPJWJが複数のテントを組み合

わけて開設したフィールド・ホスピタル(FH)野外病院の運営に参画。FH内での診療に加え、周辺の巡回診療などを行った。訓練に参加したTMATの村田宇謙・湘南鎌倉総合病院(神奈川県)外科部長は「多機関がスムーズに連携するには平時から訓練を行うことが重要です。今回、流れを確認でき、とても良い経験となりました。また、西村浩一・松原徳洲会病院(大阪府)看護主任は「他団体との横のつながりを大切に、発災時にはひとりでも多く救えるように貢献したい」と力を込める。野口幸洋・事務局長(ロジスティクス統括、一般社団法人徳洲会医療安全・質管理部課長)は「多機関が連携することによって、お互いの強みを生かせるメリットがあると思います」と振り返っていた。



パーチェ・リハビリ病院敷地内に開設された診療所テント

トルコ・シリア大地震

TMATの活動記録

写真グラフ 特集

トルコ南東部の町、パーチェを拠点に活動したTMAT第1陣と第2陣の災害医療活動の一端を写真で紹介する(2023年2月17日~22日撮影分)。(1面に関連記事)



時間が空いた時に通訳のkansu・ユウさん(左)とアキラさんに医療用語の説明をする坂口・薬剤部副主任(中央)



薬の置き場所の確認など引き継ぎを行う左から坂口・薬剤部副主任、柳川薬剤師、篠原・副業局長



診療の合間に紙カルテに記入する當麻部長。傍らには、いつも来ている野良犬が寝そべる。トルコでは野良犬、野良猫が多いが、地域で大切に飼われている



指をナイフで切った患者さんの縫合を行う村田部長



英訳したカルテのチェックを行う西沢課長。その後、EMTCCに報告する



てんかん発作を起こしている患者さんの処置をする左から鈴木センター長、UMKEスタッフ、佐藤・看護師長、伊豫田看護師



治療が終わると撮影を求める患者さんや家族が多い。右から土山・看護副主任、通訳のセマさん、油江看護師、町田医師



パーチェ・リハビリ病院事務所に挨拶をする左から當麻部長、町田医師、鈴木センター長、通訳のアリさん



第1陣&第2陣メンバーが宿泊施設ロビーでミーティング



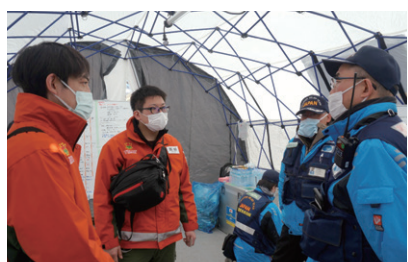
肩を痛めた少年の治療をする當麻部長を見守る左から合田医師、鈴木センター長、通訳のセマさん



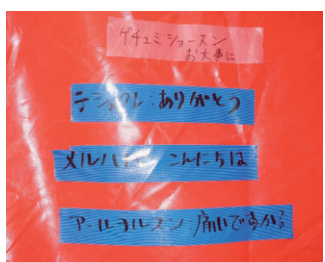
帰国すると知り、手紙を書いて持ってきてくれた少女と村上看護師。日本とトルコは姉妹国と書かれている



オスマン保健省のトップ(奥)と面談する左から當麻部長、鈴木センター長、阪木・事務局長



ガジアンテップにあるJDR医療チームの活動サイトを視察する左から鈴木センター長と合田医師



診療所テント内にあるトルコ語の片仮名表記と日本語訳



避難所テント。他人同士支え合う文化がトルコにはあり、寝たきりの老女の世話をしている女性。胃瘻のケアも行っている



2月22日、パーチェリハビリ病院1階の復旧が進み、その一角に設けられたTMATの診療室



避難所テントの一角で血圧など健康チェックをする。左から當麻部長、油江看護師、上國科・看護副主任、柳川薬剤師



訪問診療に行く先々で、記念撮影を求められる。左から合田医師、伊豫田看護師、町田医師、油江看護師、當麻部長、土山・看護副主任、篠原・副業局長、柳川薬剤師、上國科・看護副主任



公民館に避難している家族を訪問診療。子どもの可愛らしさに触れ思わず抱き上げる町田医師



患児のために折り鶴を披露。異文化交流の機会にもなる



パーチェ・リハビリ病院。上層階は地震による被害が残る



パーチェ・リハビリ病院に隣接する避難所テント。近くでは倒壊した建物の瓦礫を撤去する作業も

TMATは皆様からのご支援のもとに精力的に活動しています！
ご協力をお願いいたします！！

1995年の阪神・淡路大震災での活動を契機にスタートしたTMATは、世界の人々の生命と健康を守るため、災害医療支援をはじめ総合的な医療支援活動を各国政府やNGO(非政府組織)、地域団体と協力しながら活動しているNPO法人です。私たちの活動は、主に企業・団体・個人の皆様からTMATの会員として資金協力していただくことで支えられています。ぜひ、ご協力ください。

ご協力のお願い

正会員年会費 10,000円
 個人賛助会員年会費 ... 1口 3,000円(1口以上)
 団体年会費 1口 30,000円(1口以上)

クレジットカードによるご協力
http://www.tmat.or.jp/donate_on_the_credit/
 ※VISA/MASTER/JCB/AMEX/DINERSの各種カードがご利用いただけます。
 ※提携カードでは、お取り扱いできない場合があります。

振り込みによるご協力

- 郵便口座記号番号：00170-4-564249
- 銀行名：ゆうちょ銀行
- 金融機関コード：9900 ■ 店番：019
- 預金種目：当座
- 支店名：〇一九(ゼロイチキュウ)店
- 口座番号：0564249
- 受取人：特定非営利活動法人 TMAT